

エルサルバドル大統領選挙 — 二大政党制の終焉とブケレ次期政権の見通し —

吉田 和隆

はじめに 一大統領選挙総括

2019年2月3日に実施されたエルサルバドル大統領選挙においては、決選投票にもつれ込むとの戦前の方の予想を裏切り、GANA（国民統合のための大連合）のナジブ・ブケレ氏（前サンサルバドル市長）が得票率約53%を獲得し、過半数を獲得する候補者がいない場合に行われる予定であった決選投票を待たず、第一回投票で勝利した。1992年の内戦終結後継続してきた右派政党ARENA（国民共和同盟。現最大野党）と左派政党FMLN（ファラブンド・マルティ民族解放戦線。現与党）による二大政党制をブケレ氏が打ち破ったことにより、エルサルバドル近代政治史は新しい1ページを開くことになった。依然健在と見られていたエルサルバドルにおける二大政党制の溶解は多くの者が想像していた以上に進んでおり、二大政党の腐敗^注を糾弾するブケレ氏が、多くの国民の既存政治に対する不満を自身への支持に糾合することによって、エルサルバドルに存在する14県全てにおいて最多の票を獲得するという地滑りの勝利を収めたのが、今回のエルサルバドル大統領選挙であったと総括できる。

若者人口の膨張が革命や争乱に繋がりやすいとするユース・バルジの理論は、大まかな傾向として一国の選挙に援用しうる。“La Prensa Gráfica”紙が選挙日当日に行った出口調査によれば、18～25歳の有権者の48.5%がブケレ氏に票を投じたが、この数字は年齢層別の中で最も高い割合であり、それに次ぐのが26～36歳の年齢層となっている。選挙管理委員会の統計によれば、有権者数約520万人のうち、

18歳から29歳の有権者は約150万人（全体の約29%）であり、39歳までの年齢層に広げれば、半数となる260万人となる。これら若者層の多くがブケレ氏に票を投じたことが、同候補勝利の大きな要因の一つとなった。また、ブケレ氏は若者層に対しより強い影響力を有するSNSを最大限に活用した。ブケレ氏のフェイスブックのフォロワー数は約138万人であり、ブケレ氏が得た得票数が約143万票であったことを想起すれば、同氏のフォロワーの多くが同氏に票を投じたと想像される。二大政党制の枠組みの中で自分たちの声が顧みられることはないと感じる若者たちの不満をすくい上げ勝利したブケレ氏は、右派・左派というこれまでのエルサルバドルの政治構造の枠組みには収まらないデジタル時代に適応した政治家であり、大衆の代弁者という自己イメージ戦略の観点からは、複数の有識者が同氏を形容するポピュリストという評価にも違和感はないと言える。



ブケレ候補の当選を報じる主要紙（執筆者撮影）

表：2019年エルサルバドル大統領選挙結果

氏名	政党	得票数	得票率
ナジブ・ブケレ候補	国民統合のための大連合（GANA）	1,434,856 票	53.10%
カルロス・カジェハ候補	新たな国のための同盟（国民共和同盟（ARENA）＋国民団結党（PCN）＋キリスト教民主党（PDC）＋エルサルバドル民主主義による選挙同盟）	857,084 票	31.72%
ウゴ・マルティネス候補	ファラブンド・マルティ民族解放戦線（FMLN）	389,289 票	14.41%
ホスエ・アルバラード候補	「バモス党」	20,763 票	0.77%

（出所：エルサルバドル最高選挙管理委員会（TSE））

内政 ー大衆の代弁者としてのイメージとリスク

企業家であるブケレ氏は、2012年11月の“Contra Punto”紙によるインタビューにおいて、自身のことをラディカルな左派と称している。左派政党FMLNから出馬し当選したヌエボ・クスカトラン市長職(2012～15年在任)、及び首都サンサルバドル市長職(2015～18年在任)においては、奨学金拡充、公立医療機関への投資、女性の起業支援等、弱者救済に着眼した政策を推進した。ブケレ氏が市長に就任した15年、サンサルバドル市の人口10万人当たりの殺人件数は108.54人であり、ベネズエラのカラカス、ホンジュラスのサン・ペドロ・スーラに次ぐ世界ワースト3位に位置していたが、ブケレ氏は公共スペースの確保を目的としたサンサルバドル市中心部再開発、犯罪予防に着眼した社会的包摂政策を進め、人口10万人当たりの殺人件数を17年には59.06人まで減少させた。その手腕は高く評価され、米国“TIME”紙が選ぶ2017年次世代リーダー25人のうちの一人に選出されている。他方、サンサルバドル市政において用いた「公益は民間の利益より優先すべき」というキャッチフレーズからポピュリストと見なされ、ブケレ氏による暴言に対する市共益委員からの起訴、2億3,500万米ドルの債務を市財政に残した点等への批判は根強い。

ブケレ氏は既存政治家を腐敗していると辛辣に批判することによって、大衆の支持を集めていったが、その批判は自党FMLNの執行部にも向けられ、17年9月には、サンチェス・セレン大統領の指導力の欠如、及び独断的に物事を決める党執行部を批判する発言を行い、同年10月、規律違反を理由に党から追放された。同月、ブケレ氏は新政党Nuevas Ideas(新しいアイデア:NI)を創設したが(政党登録が2019年大統領選挙の候補者擁立プロセスには間に合わず、ブケレ氏はGANAから出馬)、同党を左派でも右派でもなく、様々なセクターの大衆が参加していることから、中道と称している。大統領選挙にあたり、NIはHP上で市民から政策のアイデアを募集する等、既存政党政治の枠組みでは顧みられてこなかった大衆の声を重視する政党という戦略をとっており、ブケレ氏が従来の右派・左派という政治構造の枠組み内ではなく、既存政治・大衆という構図において、自身を大衆の代弁者として位置づけていることが窺い知れる。

ブケレ次期政権の政策の見通しは依然不明である

が、30年にわたり続いた二大政党制における腐敗を糾弾することによって勝利した新政権では、少なくとも変化がもたらされる可能性が指摘される。他方、ブケレ氏が出馬したGANAは国会において全84議席中10議席しか有していないが、ブケレ氏は既存政党と協力しない姿勢を示している。分割政府においては膠着状態、機能不全、憲法の危機が生じやすいと指摘されるが、立法府をコントロールできないブケレ氏が、大衆の支持を盾に既存制度との対決姿勢を鮮明にした場合、また、選挙戦において憲法改正の意志を表明したように憲法に手を加えようとした場合、ガバナンスの面で深刻な問題を引き起こしかねない点が、ブケレ次期政権のリスクとして懸念される。



ブケレ氏とメインズ在エルサルバドル米国大使の会談
(出所：在エルサルバドル米国大使館ツイッター)

外交 ー対米関係重視の考え

ブケレ氏は2月7日に駐エルサルバドル米国大使と3時間にわたる会談を行い、同会談に関し、米国がエルサルバドルにとって最も重要な国であるとのメッセージをツイートしている。他方、米国大使は同会談において、汚職対策及び犯罪組織対策に関する米国の対エルサルバドル支援、ベネズエラ情勢、現サンチェス・セレン政権による中国との外交関係樹立等について議論した旨、さらに、トランプ大統領、もしくはポンペオ国務長官との会談実現に向けて、両国関係者が調整を開始している旨明らかにしている。続く13日には、ブケレ氏はボルトン国家安全保障担当大統領補佐官と電話会談を行い、さらに19日には民主党議員団、翌20日にはニールセン国土安全保障長官と、エルサルバドルを訪問したそれぞれと矢継ぎ早に会談した。

ベネズエラのマドゥーロ政権、ニカラグアのオルテガ政権を支持する現サンチェス・セレン政権と米

国の関係は良好とは言えず、約 19 万人のエルサルバドル人が対象となっている「一時的保護資格 (TPS)」の打ち切り問題 (2019 年 2 月 28 日、米国土安全保障省が 20 年 1 月までの延長を発表したが、その後の継続に関しては未定) は、エルサルバドル・米二国間関係に隙間を生じさせ、隙間を突く形で中国とエルサルバドルの接近の一要因となった。このような状況下において、サンチェス・セレン大統領は 18 年 8 月 20 日に約 80 年続いた台湾との断交、及び中国との外交関係樹立を発表したが、現政権による中台承認切替えの決定は、エルサルバドル・米二国間関係にさらに強い緊張を生じさせた。

米国はブケレ氏の勝利を好機と捉え、同氏への積極的なアプローチを見せており、対するブケレ氏も、マドゥーロ大統領及びオルテガ大統領を「独裁者」として非難するなど米国の意向に沿う発言を行い、対米関係の改善に対する意欲を示しており、現在までのところ、両者は蜜月関係を築く勢いである。

また、サンチェス・セレン現政権による中台承認切替えに関し、中国との合意に関して見直すとブケレ氏が述べていることも注目される。ブケレ氏は、同見直しは必ずしも中国との断交を意味しないとも述べているが、中国との外交関係樹立に関し透明性が欠けるとの批判を国内外から浴びせられながらも、中国との接近を進める現政権の姿勢とはかけ離れたものであり、ブケレ大統領が誕生することによって、現政権下で加速していた中国との接近には一定のブレーキがかかることが予想される。米国側から見れば、ブケレ氏を自陣営に取り込み次期政権と良好な関係を築くことによって、地政学的観点から中国のエルサルバドルにおけるさらなるプレゼンス拡大を阻止するという思惑も存在しよう。他方、ブケレ氏としては、米国との関係改善を通じ、TPS の延長やそれに代わる法的滞在ステータスを米国側から引き出すことができれば、大きな政治的成果としてアピールできる。米国とブケレ氏のそれぞれの思惑が交差する力学が、ブケレ新政権における対米関係、さらには、米国の出方次第によって生じ得る空白を利用する形で中国の台頭の可能性という文脈における対中関係の先行きを左右することになると考えられる。

ブケレ次期政権の見通し

立法院に支持勢力を有さないブケレ氏は、大衆の

支持を盾に政策を推進することになると考えられるが、既存政治勢力との対話を閉ざす考えが、ガバナンスの面で問題を引き起こす可能性として懸念される。他方、外交面では対米関係重視の姿勢を鮮明にしており、現サンチェス・セレン政権において冷え込んだエルサルバドル・米二国間関係の改善が期待される。政権移行チームの顔ぶれも明らかになっていない中、ブケレ次期政権の展望を予想することは時期尚早ながらも、二大政党制に終止符を打ち、高い国民の支持を受け、37 歳というエルサルバドル史上最年少の大統領となるブケレ氏の手腕には、エルサルバドル国内のみならず、国際社会からも低くはない関心が寄せられよう。

(本稿は、2019 年 2 月末執筆時点での情勢に基づくものである。なお、執筆者個人の考えを述べたものであり、外務省・在エルサルバドル日本国大使館の立場や見解を代表するものではない。)

(よしだ かずたか 在エルサルバドル日本国大使館二等書記官)

注：両党の腐敗は、フローレス (1999～2004 年在任。ARENA)、サカ (2004～09 年在任。ARENA)、フネス (2009～14 年在任。FMLN) の過去 3 代の大統領の汚職問題による起訴に端的に表れている。